

心理学専攻院生チーム



分析コン最優秀賞

左から北條さん、仙取さん、田中さん、坂本さん

テレビCM 効果を解明

野村総合研究所主催のマーケティング分析コンテスト2016で、心理学専攻院生の北條さん、田中利夫さん(院修2)、坂本次郎さん(院博1)、仙取恵太さん(院博1)の報告が最優秀賞に選ばれた。

コンテストは、野村総合研究所が調査したマーケティングデータに基づいて、野村総合研究所主催のマーケティング分析コンテスト2016で、心理学専攻院生の北條さん、田中利夫さん(院修2)、坂本次郎さん(院博1)、仙取恵太さん(院博1)の報告が最優秀賞に選ばれた。

大学院文学研究科心理学専攻の院生が目覚ましい活躍を遂げている。心理統計学の研究を深め学会で賞を受賞。また、統計と臨床系の院生に加え、人間科学部心理学の学部生が力を合わせ、マーケティングという異なる分野に挑戦し、コンテストで最優秀賞に選ばれた。

「3カ年の分析など、データをうまく活用している」と高い評価を得た。マーケティングと心理学は相性がいい」と北條さん。田中さんは「畑違いだが分析は楽しかった」と充実した表情。坂本さんは「違う分野への挑戦は新鮮だった。心理学の統計の知識がマーケティングにも通用することが証明できた」。仙取さんも「統計に対する真摯な態度が認められたのだと思う」と成果を語り、メンバーが作ったスライドを学部生がチェックするなど協力プレーも行った。

北條さん(院文修1) 日本計算機統計学会

学生研究発表賞を受賞

修士課程心理学専攻1年次の北條大樹さんが、日本計算機統計学会の第30回シンポジウム(11月24、25日、静岡県沼津市)で、学生研究発表賞を受賞した。同賞は学生に贈られる最高賞で、専修大からの受賞は初めて。

発表題目は「反応傾向バイアスに対処するための新たな係留寸描法データ分析モデル」。指導教員は岡田謙介人間科学部准教授。

例えばアンケートで、5段階で自分に当てはまる項目を選ぶとき、日本人は「どちらでもない」を選ぶ傾向が強い。北條さんの研究では、政治学分野で提案された手法を応用し、回答の「くせ(反応傾向)」を考慮できる新たな統計モデルを



北條さんと岡田准教授

提案。シミュレーションを行った上で実際のデータで性能評価し、提案手法を用いることでよい推定ができることを示した。

高校時代から心理学に興味があった北條さん。人間科学部1年次で岡田准教授の心理学データ解析の授業を履修したが「さっぱり分からなかった。目に見えない心の動きを、科学的に証明するの」がデータ分析だと理解する。「データ分析はうまくいかないこのほうが多いが、たまにかつちりと解に当てはまったときの面白さにはまった」と笑顔がこぼれる。

同学会では、統計に関する研究者を志す学生の奨励を目的に2006年度に学生研究発表賞を創設。優れた論文発表を行った学生会員を審査により表彰する。シンポジウムでは11人が発表。北條さんは学会前日まで計算を続けていたという。岡田准教授は「初めての学会口頭発表での受賞は快挙。回答の背後にある個人の心理を統計モデリングによって明らかにするもので、アイデアの面白さと方法論の確かさが評価された」と語る。

北條さんは「受賞をバネに、今後もさまざまな統計学の考えを用いて研究していきたい」と意気込む。

中小企業の活路を探る 商・高橋義仁ゼミがシンポ開催



増加する訪日外国人客への対応や海外進出などを考えるシンポジウムを商学部・高橋義仁ゼミが開いた(11月24日、生

ゼミ生も参加し、講演者たちに積極的に質問を投げかけた。

田キャンパス)。

高橋ゼミのテーマは経営戦略。ゼミ生の佐藤佑亮さん(4年次)が「インバウンド旅行者の誘致と受け入れ態勢の整備」をテーマにビジネスプランを発表。着物体験と江ノ島電鉄のスタンプリーを組み合わせた鎌倉観光を提案した。

横浜市経済局と総務局の担当者が中小企業の海外展開の支援策について概要を説明したあと、「日本製品中国市場販売支援会」を主宰する白石久充氏が講演。中国・大連でIT企業を経営する白石氏は自身が文化や習慣、意識の違いに戸惑っ

た経験から、日中の企業や自治体の橋渡し役としても活動する。「中国では毎月のように法律が改正され、変化のスピードが速い。海外進出には現地の事情に精通した人から情報を得ることが大切」と語った。

ゼミ生のほか、高橋教授の授業を履修する2人の中国人学生も参加。そのうち、孫忠強さん(4年次)は日本製の日用品や人気の美容器具を中国企業に卸販売する会社を設立したばかり。「安い仕入れ先を探すのに苦心している」と話す孫さんに、白石氏は「日本に住んでいる強みを生かし、中国人の目で売れそうな商品を発掘しては」と助言した。

6大学共同の意識調査「FUTURE」

政田さん(経営)消費行動報告



記者発表会を終え、報告書を手にする政田さん

広告やマーケティングを学ぶ6大学(専修、青取)の学生が山学院、駒澤、上智、千プロジェクト(FUTU

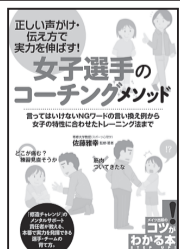
RE2016、公益社団法人・東京広告協会主催)に、経営学部・石崎徹ゼミの政田凌さん(3年次)が参加。大学生約1000人を対象とした、大学生と消費に関する意識調査を行い、報告書にまとめた。

プロジェクトメンバーは、12月7日、東京都中央区の電通銀座ビルで開かれた記者発表会で成果を報告した。今までの大規模な調査は、学生が「コスパ(コストパフォーマンス)費用対効果」にうるさい(66・1%)とする半面、

「欲しいものにお金をかけることはいとわない(83・1%)」と消費意欲が高い面があることを指摘。独自の意識を「シン・コスパ」と名付け、コストの低さだけでなく、パフォーマンスの良さ(満足度の高さ)を重視する新たな消費スタイルを浮き彫りにした。

政田さんは「プロジェクトのメンバーだけでなく、ゼミの先輩や仲間たちの協力もあり、充実した活動になりました。論理的に思考を進めるテクニックやチームワークの大切さなどを学び、成長できたと思います。広告やメディアへの関心が強まりました」と活動を振り返った。

専修人の新しい本



佐藤雅幸監修・著

女子選手のコーチングメンツ

本書は女性アスリート指導者のコーチングに関する問題を研究している相澤勝スリーットの心身を理解するための指南書としてぜひ読んでいただきたい一冊である。(メイツ出版・本体1600円+税)

監修・著者(さとうまさゆき)は経済学部教授、主な担当はスポーツ心理学。

書き込み式スペイン語単語帳



藤井嘉祥、シルビア・アロンソ、井上幸孝、砂山充子著

第2外国語としてスペイン語を学習する人向けの基本語集。約1700語を収録し、標準的なスペイン語教科書の副教材としての活用を意図した。レベルを3段階に分け、段階的に基本語彙を習得できるよう構成する。とともに、テーマや動詞の種類ごとに語彙を分類し、文法項目とも関連付けて学べるよう配慮し

た。

「書き込み式」の名の通り、インターネット上で提供される音声を読みながら、自分で空白を埋めて完成させていく。各ページ下部には例文を配置した。

音声吹き込みには、ピセンテ・オタメンディ法、学部非常勤講師と文学部人文・ジャーナリズム学科4年次の片貝絵奈さんも参加した。(朝日出版社・1200円+税)

共著者(ふじいよしただ)は経済学部非常勤講師(シルビア・アロンソ)はネットワーク情報学部非常勤講師(いのうえ・ゆきたか)は文学部教授(すなやま・みつこ)は経済学部教授。いずれもスペイン語担当。